

発刊に寄せて

熊本地震発生から今年で6年になります。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、多くの人々が被災地の助けになると自発的に支援に関わり、2011年の東日本大震災以降、被災地では様々な人々が協働する光景を目にすることが多くなりました。

そのように支援活動が活発になる中、「支援をしたいが何から手を付けていいかわからない」「活動する中でなんとなく迷いを感じている」「あの時の活動はあれで良かったのだろうか」など、悩んだ経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。

この冊子は、そのような問いに対し、「人道支援の質と説明責任に関する必須基準」(Core Humanitarian Standard on Quality and Accountability(CHS))を軸に、支援の際のヒントをわかりやすくまとめたものです。CHSには、世界各地の支援現場から集められた知見や反省をもとに、9つのコミットメント(約束事)が示されていますので、この冊子でもコミットメントごとに、支援を実施する際のポイント、事例※を紹介

介しています。

また巻末には、熊本で自らも被災しながら様々な立場で支援に携わった方のインタビューや専門家・支援関係者による提言、支援の際に役立つ資料のリンク集も掲載しています。

2020年には、新型コロナウイルスの感染拡大に加え、豪雨災害(令和2年7月豪雨)により熊本県は再び被災し、その対応にも追われました。コロナ禍の支援では、「多くの人々が集まり力を合わせることで災害を乗り越える」という、従来の被災地支援の方法を大きく変えなくてはならない試練も経験しました。

国内各地で毎年のように水害や地震が発生しています。また近い将来、南海トラフ地震や首都直下地震など、巨大災害が発生するともいわれています。

支援を実施する前、実施中、撤退時など、支援の折々でこの冊子にふれていただくことが、より良い支援の一助となれば幸いです。

2022年6月

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
事務局長 高橋丈晴

※特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)の、国内および海外の支援事例をもとに、作成しました。

復旧作業が終わった
熊本城天守閣